

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人東京外国語大学

1 全体評価

東京外国語大学は、世界の言語とそれを基底とする文化一般につき、理論と実際にわたり研究教授し、国際的な活動をするために必要な高い教養を与え、言語を通して世界の諸地域に関する理解を深めることを目的としている。第3期中期目標期間においては、これまで培ってきた日本を含む世界諸地域の知識・経験を基に、地球的課題に取り組み、世界諸地域の人々と協働できる多言語グローバル人材を養成するとともに、グローバルな視点に基づく世界諸地域の政治・経済・社会、文化・諸言語の研究並びに日本及び日本語に関する研究を推進すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学生の海外派遣等に向けて海外大学等の交流協定校数を拡大するとともに、学修支援体制を強化するため、学修活動履歴書等に関するサポートを行う「TUFSS Academic Support Center (たふさぼ)」を新たに設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、海外で実施するプログラムは全て中止となったものの、平成23年度から30年度まで着実に参加者を増やしてきた「短期海外留学(ショートビジット)」等のプログラム拡充により、令和2年度卒業者のうち2回以上留学した者の割合は46.1% (340名) であり、過去最高となっている。また、特定の国・地域との交流促進を目的とする「大学の世界展開力強化事業」の活用により、ラオス、ミャンマー、カンボジア、ロシア、米国の計130名の学生に対し、オンラインによる短期受入プログラムを提供している。(ユニット「TUFSSネットワーク中核大学」創生宣言に基づくスーパーグローバル大学事業の推進)に関する取組)
- 既存の海外協定校に関して交流状況等の検証を踏まえた見直しを行うとともに、海外協定校の新規開拓を推進した結果、年度計画を上回る11校(アジア1、アフリカ1、ヨーロッパ6、北米1、中南米2)との国際学術交流協定を新たに締結したほか、治安悪化等により交流の継続が困難となった既存の1協定を廃止しており、令和3年3月現在の国際学術交流協定校は71カ国・地域228機関となっている。(ユニット「東京外国語大学の強みを生かした国際日本研究の推進」に関する取組)

## 2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ 科学研究費助成事業の推進

前年度不採択だった優れた研究計画に対する科研費支援研究費の配分により、研究計画のブラッシュアップや再申請を促しているほか、勉強会や説明会の開催、事前診断・アドバイスの実施等の取組を行ったことにより、令和2年度の申請率は85%を超えており、科学研究費助成事業の採択件数は161件、獲得額は約5億4,327万円（対前年度比約7,670万円増）であり、第3期中で最高となっている。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

### ○ 学修支援体制の強化

従来の指導教員等による個別相談に加え、学修活動履歴書等に関するサポート、履修に関する相談、ゼミ選択、学内の各種学修プログラム紹介等の包括的・多角的視点によるサポートを実施するため、令和2年度から「TUFS Academic Support Center(たふさぼ)」を新設し、専任の教員1名、学修アドバイザー2名のほか、大学院生を中心としたスタッフを複数名配置している。また、在学生用の緊急相談窓口としてメールフォームによる「tufs110」を新たに設けるなど、学修支援体制の強化を図っている。